

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年 8月7日

【評価実施概要】

事業所番号	4073500284
法人名	医療法人 恵真会
事業所名	グループホーム めぐみ
所在地 (電話番号)	福岡県前原市大字志登 567-1 (電話) 092-330-6111

評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋 2-2-51		
訪問調査日	平成20年7月28日	評価確定日	平成20年9月19日

【情報提供票より】(20年 7月 10日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 3月 4日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 11人, 非常勤 4人, 常勤換算 13人	

(2) 建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="checkbox"/> 単独	<input checked="" type="checkbox"/> 新築 <input type="checkbox"/> 改築
建物構造	鉄骨 造り	1 階建ての 1 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,300 円		

(4) 利用者の概要(7月10日現在)

利用者人数	16 名	男性	0 名	女性	16 名
要介護 1	7 名	要介護 2	5 名		
要介護 3	3 名	要介護 4	0 名		
要介護 5	1 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低 70 歳	最高 104 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	渡辺整形外科病院、小島歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営理念については、地域密着ということを第一に考えようと、昨年職員全員で話し合いを重ねながら、地域の中でみんな仲良く、思いやりのある心豊かな暮らしを目指します」といふ新たな理念を作り上げた。理念をかなえるべく、地域に積極的に出て行く機会を増やしているところである。また運営理念だけではなく、接遇目標というものも掲げており、常に利用者を第一に考えた接遇ができるよう心がけている。そのような接遇を受けている為か、利用者達が、リビングで歓談しながら、笑顔で楽しそうに過ごされている様子を窺い知る事ができた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では、地域密着型としての理念や市町村との関わりについて等が改善として挙がっていたが、それらについては介護会議の中で話し合いを行った上、改善シートを作成し、改善に向けて取り組みを行っている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員がそれぞれ自己評価票に記入したものを集めて、それらの内容をまとめて管理者が作成した。評価を行う意義についても理解しており、これまでの業務を振り返る機会としている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	地域包括支援センターの職員や民生委員、利用者家族の代表等が委員となり、2ヶ月に1回開催しており、出席者からは協力的な意見が出される。会議ではホームの取り組みや行事等を報告したり、逆に地域の情報を教えてもらう等、双方の情報交換の場となっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法、運営への反映(関連項目:外部8,9)
	意見や不満等、直接言いにくいこともあるかもしれないと考え、玄関に意見箱を設置して対応している。また家族会を開催したり、家族アンケートを取ったりしているが、今のところ特に意見や不満はでていない。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	隣接する老健と合同で「あじさい祭」を開催したり、地域ギャラリーの「ほのぼの展」で利用者の作品を展示し、地域の人に集まってもらったりすることをはじめ、近所の校区の文化祭に参加したりと、地域の人たちと交流する機会を多く持つようしている。

2. 評価報告書

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくっている	地域密着ということを中心とした理念となるように、職員全員で意見を出し合い、「地域の中でみんな仲良く思いやりのある心豊かな暮らしを目指します」という理念を作り上げている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、申し送りの時間の中で理念を唱和し、意識付けを図っている。また実践に向けて日々取り組んでおり実際に地域との関わりも増えてきた。		
2.地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接する老健と合同で、「あじさい祭」を開催したり、地域ギャラリーの「ほのぼの展」で利用者の作品を展示し、地域の人に集まってもらったりすることを始め、近所の校区の文化祭に参加したりと、地域の人たちとの交流する機会を多く持つようにしている。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	まず職員がそれぞれ自己評価票に記入したものを集めて、それらの内容をまとめて管理者が作成した。昨年の外部評価においての改善点についても、介護会議等の中で話し合いを行い、改善シートを作成した上で改善に向けて取り組みを行った。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センターの職員や民生委員、利用者家族の代表等が委員となり、2ヶ月に1回開催しており、出席者からは協力的な意見が出される。会議ではホームの取り組みや行事等を報告したり、逆に地域の情報を教えてもらう等、双方の情報交換の場となっている。	○	会議の記録はノートに残しているが、今のところ議事録として残すところまでは行っていない。会議で出た意見をどのように改善しているのか、また取り組みを行っているのか等の経過としてみることも出来る。出席者にも議事録を配布して、次の会議時の議題として話していく等の利用も検討していくとよいのではないだろうか。

グループホーム めぐみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	3ヶ月に1回、市役所にホーム便りを配布しに行ったり、利用者の更新申請に行く等、市の窓口には頻りに足を運んでおり、担当者との連携は取れている。また市役所の方から、入所に対する相談等を受けることもある。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	前年の評価で改善項目であったが、その後、パンフレットを作成したものを職員に配布し、それぞれ勉強したり、介護会議の中で制度についての話しをしたりしながら、知識を深めている。また、利用者の家族に対しては、入居時に説明を行うようにしている。		
4.理念を实践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月1回の請求書送付時に「めぐみ便り」を同封している。「めぐみ便り」には、各担当者からの手書きのコメントを添えており、キーパーソン以外の家族にも送付するようにしている。また、面会時にも状況を報告したり、あまり面会に来られない家族に対しては電話での報告をするようにしている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や不満等、直接言いにくいこともあるかもしれないと考え、玄関に意見箱を設置して対応している。また家族会を開催したり、家族アンケートを取ったり先しているが、今のところ特に意見や不満はでない。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	極力異動は行わないようにしている。退職等により職員が入れ替わる時には、必ず1ヶ月程度引継ぎの期間を設けて、利用者のダメージを最小限に留めることができるように配慮している。		

グループホーム めぐみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の採用にあたっては、その人の考え方や人間性を重視しており、年齢や性別で採用から排除することはない。</p>		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>人権教育については、管理者研修の中のプログラムに組み込まれていたため、その内容を職員に報告した。また日々の業務の中でも人権についての取り組みは行っている。</p>		
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修には交替ではあるが、積極的に参加するようにしている。また隣接する老健と合同で年3回研修会を開催しており、事例の研究発表等も行っている。</p>	○	<p>職員のスキルや段階に応じて、研修を受講することが出来るように、事前に計画を立てておくことが求められる。</p>
14	22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会に入会しており、ブロックごとの研修や勉強会等に積極的に参加して、他のグループホームの職員との交流を図っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	利用者本人に実際に何度か来てもらったりホームに馴染るまで家族に泊まってもらったり、徐々に馴染るような働きかけを行っている。		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀れを共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている</p>	本人本位ということをし、職員は何にでも手を出すのではなく、出来ることは本人に取組んでもらったり逆に教えてもらったりしながら、共に支えあう関係を構築している。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	それぞれの性格や生活歴等から、本人がどのようにしたいのか、どのような思いを持っているのか等を探りながら、アプローチを行っている。毎日のコミュニケーションの中で、本人の希望や意向の把握は出来ている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	担当制をとっているため、それぞれの担当がケアプランを作成し、計画作成担当が最終的に目を通す形にしている。家族の意見についても面会時に聞いて、それを反映させたケアプランを作成している。	○	出来上がったケアプランを家族に見せて、確認のサインをもらっているが、日付の記載がないため、いつ確認してもらったのかわからなかった(別様式のものに記録はなされている)。今後は一目でわかるものとなるように工夫するとよいのではないだろうか。
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	Aユニットは6ヶ月に1回、Bユニットは3ヶ月に1回で見直しを行うようにしている。その間、モニタリングやケアチェック等も行っており、状態に変化があれば、その都度ケアプランの見直しを行うようにしている。		

グループホーム めぐみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人にとって、現状、どのようなことが必要なのかを考えながら、馴染みの関係が壊れないようにする等、状況に合わせて柔軟に対応している。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの馴染みの関係が崩れないように、元々のかかりつけ医への受診を支援している。また状況によっては往診をしてもらうことも可能である。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	段階に応じて本人や家族、かかりつけ医と話し合いながら、対応策を検討している。今のところホームでの終末期の対応事例は無い。治療の必要な方は、医療機関で対応してもらうこととしている。本人や家族にも、入居時にその旨説明しており、同意の文書ももらっている。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対する職員の言葉かけや対応は、ゆっくりと穏やかに行われており、プライバシーを損ねるような場面は見受けられない。また記録類についても事務所内の棚にカーテンで目隠しをして管理している。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースに合わせて、決して無理強いはいはしないように対応している。可能な限り、個別対応出来るように配慮している。		

グループホーム めぐみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれが出来る範囲で関わりを持ってもらうようにしている。利用者と職員が同じテーブルで同じ食事を摂りながら、ゆったりとした食事の時間を楽しんでいる。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応曜日と時間帯を決めてはいるが、利用者の状況や希望に合わせて臨機応変に対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が持っている力を活かして、日常的な掃除、洗濯、調理等、無理強いすることなく、自然にそれぞれの役割をもってもらえるように支援している。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	それぞれの希望を聞きながら、散歩や買物等に出掛けている。また時には外食やドライブにも出掛けることもあり、積極的に戸外にでる機会を持っている。今後は今まで以上に個別対応が出来るようにしていこうと考えている。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の中が広く、構造上死角も多いため、利用者が玄関から出ていこうとする時に目が届かない時がある。またホームの前に車の通りが多い道路もあり、危険性が高いため、今のところ鍵を掛けざるを得ない状況である。		鍵をかけないことによるリスクの方が高いことは理解できるが、やはり理想は自由に出入りできるようにしておくことだと考える。今後も検討を重ね、なるべく理想に近づけるような対応を行っていくことが望まれる。
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	2ヶ月に1回避難訓練を行っている。その際、夜間を想定した訓練も行い、いざという時に備えている。またホームの隣に老健もあるため、万が一の際は協力も得られる状態になっているが、合同で訓練を行ったことはない。	○	せっかく協力体制がとれる状況にあるので、今後は合同で訓練を行う等の取り組みがなされると、さらに心強いのではないだろうか。

グループホーム めぐみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	材料を業者からとっており、献立も業者の栄養士が立てたものがあるため、それをベースにして利用者の希望を聞いたりしながら、最終的な献立を作成している。そのためおおよそのカロリーの把握はできている。また、食事摂取量をはじめ水分摂取量をチェック表にまとめており、それぞれの状況の把握に努めている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには利用者が書いた習字や絵等が飾られ、ソファやテーブル、装飾品も一般の家庭にあるようなもので揃えられており、心地よく過ごせる空間作りがなされている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室には、好みのものや使い慣れた家具、人によっては仏壇等も持ち込まれており、自宅にいる感覚で居心地よく過ごせる空間づくりがなされている。		